

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
E112E005		国語学概論 (An Introduction to the Japanese Linguistics)																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 荻野 千砂子 E-mail 内線													
授業の概要	日本語がどのような系統の言語かを考察する。まず、中学校で学んだ口語文法について、総復習を行う。その上で、言語の音声・音韻の特徴や日本語の単語の特徴や文法について解説する。さらに、敬語の問題や方言の問題も解説する。学習指導要領の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に対応する内容となる。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1 中学校で学んだ口語文法を学び直しながら、教職に対する使命感や責任感、教育的愛情を醸成する。																			
目標2 日本語の単語の特徴、文法、敬語の問題や方言の問題を理解した上で、日本語がどのような言語かを説明できるようになる。																			
目標3 学習指導要領の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の理解を深めるために、自発的・協力的に授業に参加する。																			
目標4 授業で学び得た専門的知識をもとにして、学校における言語環境のあり方について自分なりの考えを持つ。																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 学校文法(品詞)																			
2 学校文法(用言)																			
3 学校文法(自立語と付属語)																			
4 日本語の系統																			
5 音声学・発声の仕組み																			
6 IPA(国際音声字母)																			
7 母音と子音																			
8 音韻論・アクセント																			
9 日本語祖語																			
10 語彙・語構成・語種																			
11 類義語の分析																			
12 日本の文字																			
13 待遇表現																			
14 歴史的変遷																			
15 方言																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	知識の定着を確認するために、毎回、用意された復習プリントに取り組み、相互確認をする。															工夫	その他の	
	B:意見の表現・交換	講義中に、隣の人と意見交換をするなどの時間を設け、活用的、応用的な学修とする。																	
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備	中学校の文法事項の復習をするため事前に品詞分解プリントを用意する。授業中に答え合わせをする。(30h: 毎回2h程度)																	
	事後	復習プリントを配布するので、文章でまとめること。プリントは採点をして返却する。次の授業で模範解答を示す。(30h: 毎回2h程度)																	
教科書	沖森卓也(2009)『図解日本語』三省堂 978-4-385-36242-7 その他、「小学校学習指導要領解説国語編」(文部科学省、東洋館出版社、2018)、「中学校学習指導要領解説国語編」(文部科学省、東洋館出版社、2018)																		
参考書	山田敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 ISBN 978-4-87424-310-7 影山太郎(2002)『ケジメのない日本語』岩波書店 ISBN 4-00-006823-7																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	課題レポート	10%																	
	品詞分解試験	10%																	
	記述問題試験	80%																	
注意事項	講義開始前に、予習プリントを準備する。予習をして望むこと。また、期末試験は記述式であり内容も多く難易度が高いため、必ず時間外学習を行うこと。勉強の時間を確保するため、講義の日程に実習やアルバイトや他の用務を重ねないこと。																		
備考	教科書については指示があるまで購入しないこと。																		
リンク																			
	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	中学校で教えた現場での経験を生かし、発問に対する生徒の反応等を予測した内容を授業の中で反映している。
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし
実務経験を いかした教 育内容	中学校で教えた現場での経験を生かし、学校文法を指導する。